



# Plan(計画)&Collaboration (協働)による全校体制の確立

判断基準

《学校教育目標》  
【徳】豊かな感性を育む生徒  
【知】学ぶ意欲を育む生徒  
【体】逞しい心身を育む生徒

私たちの使命(仮)  
個と社会の Well-Being を追い求め、地域とともに  
夢のある未来を創り出す人材を育成すること

私たちが大切にすること  
【生徒】いのち、思い、可能性  
【仲間】学び合い、支え合い  
【保護者、地域】信頼

## 主体性、協働性、実践力

学校経営—分掌経営—学年経営の一貫性

シンプルで  
「しん」のある教育  
芯、真、心、新

- Ⅲ 不登校を生まない取組と自立に向けた支援の充実
  - 不登校対策プランの策定
  - (仮)サポートルームの開設
  - 生徒指導委員会の充実(アセスメントの共有)
  - 情報モラル教育
  - SOSの出し方教育
  - SST、SELの研究、検討
  - 自転車通学の許可、申請のマニュアル化

-いじめ対策-  
□いじめ防止基本方針の改訂(組織的な取組)

生徒指導の機能を発揮した教育活動  
(1) 自己存在感の感受・・・主体性  
(2) 共感的な人間関係の育成・・・協働性  
(3) 自己決定の場の提供・・・主体性  
(4) 安全・安心な風土の醸成

・場を整える  
・時間(約束)を守る  
・挨拶する

組織的な学校、分掌運営  
計画的な教育活動の推進  
①プラン、マニュアル、ルールの整備  
②特別委員会の機能化  
③職員会議の効果的な実施  
部長打合せ→(1週間後)→校務部会→学年部会→企画調整委員会→(1週間後)→職員会議  
\*②、③は年間計画を見直し、実施日等を明確にする。(2学期から)  
④新年度準備の期間の確保(年度末反省会議の廃止)  
・年度内に新年度計画の策定

- Ⅱ ふれあい、語りあい  
地域で育つ教育の実現  
～総合的な学習の時間の工夫～  
□探究的な学びのプロセスの重視  
課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現  
□地域活動局の在り方の見直し  
□家庭、地域への的確な情報発信

居場所づくり  
絆づくり

個別最適な学び  
協働的な学び

Ⅰ 主体性、協働性、実践力を育む  
授業づくり

<実践>  
□主体的、対話的で深い学び  
課題提示→見通し→一人学び→学び合い→まとめ→評価→振り返り

実践力

合理的配慮の向上

研修との往還  
授業評価での検証

地域活動局

-SDGs教育-  
□SDGsのカリキュラムの策定  
□生徒会活動への位置づけ

生徒会活動

～特別支援教育～  
□特別な教育的支援を必要とする生徒の理解と対応の充実

情報活用能力の育成

Ⅳ 教育DXの推進  
<実践>  
□情報活用能力育成計画(情報モラル)  
□端末管理マニュアルの整備  
□校内活用及び持ち帰りのルール  
□校務DXの推進(所管 DX推進委員、管理部)

生徒会、部活動、校務での活用

Ⅴ 働き方改革の推進

- 働き方改革推進計画の策定(済)
- 定時退勤日
- アンケート調査
- コアチームの機能化
- 教育課程の見直し
- 生徒の自主的な活動